

## - 4 21世紀の住宅像を考える

### Exploring housing images of the 21<sup>st</sup> century

(研究期間 平成13年度)

研究調整官 Executive Director for Building Research	坊垣和明 Kazuaki Bogaki	
構造研究グループ Dept. of Structural Engineering	福山洋 Hiroshi Fukuyama	
防火研究グループ Dept. of Fire Engineering	河野守 Mamoru Kohno	
材料研究グループ Dept. of Building Materials and Components	大久保孝昭 Takaaki Ohkubo	
住宅・都市研究グループ Dept. of Housing and Urban Planning	木内 望 Nozomu Kiuchi	小俣元美 Motoyoshi Omata

Synopsis - Two types of research had been carried out to explore the images of "desirable house" which would characterize the twenty-first century, in order to search for research needs which should be adopted and appropriate to the research agenda of the Building Research Institute. One was to inquire housing builders or architects about how they extracted the real requirements of each client and how they made them into a reality. The other was to run the prize contest of treatises for the ideal house of the twenty-first century.

#### 【研究目的】

バブル経済の崩壊や少子・高齢化社会の到来、産業構造の変革から今後の住宅市場の主役は、住宅供給者側から住宅需要者側に大きく変わると言われている。言い換えれば、真に消費者のニーズに応じて住宅づくりに関わる事業者しか生き残れない世の中になると考えられる。

「住宅性能表示」を発端として、消費者に対する住宅の諸性能に関する情報開示が今後始まり、従来のものであれば供給者の勝手につくりだした「ニーズ」ではない、消費者の真のニーズに基づいた「真に良い住宅」の姿を求める動きが住宅に関わるあらゆる立場から強まるものと思われる。

こうした動きに対応して、住宅・建築・都市に携わる研究所として「真に良い住宅」に関して目指すべき方向性を提示することと、将来に向けて「真に良い住宅」を実現するために必要な研究テーマの掘り起こしと検討を行うことを目指し、併せて現研究テーマの見直しを進めるための素材を提供することとする。

[研究内容] ユーザの真のニーズを把握するために、次の2つを実施した。

- 1) ユーザ・ニーズを積極的に取り入れた良い住宅作りを指向する専門家（建築家・工務店等）への「理想の住宅像」ヒアリング調査
- 2) 一般市民を対象とした懸賞論文「21世紀理想の住宅」の募集

さらに、両者の結果を整理・分析することにより、21世紀の理想の住宅を実現するために必要となる研究・開発について検討した。

#### 【研究結果】

1)の専門家へのヒアリング調査を実施するにあたり、それぞれの問題意識や価値観に基づきよりよい住宅づくりに取り組んでいる地域ビルダや設計者を基本的な対象者の要件とした。さらに、地域的なばらつきを考慮して表1に示す専門家に対してヒアリング調査を実施した。

ヒアリングの結果は報告書として公表する予定であるが、個人住宅の施主は住宅に関して知識も豊富で要求も多様であり、従来のように「全てお任せ」ではなくなっていることがヒアリング対象者の多くに共通の認識として挙げられる。これらの専門家は、施主のもつ漠然とした住宅のあり方への要求を汲み上げるために相当の時間を費やしており、その過程で、当初は施主自身が意識していなかった「真の要求」を発見することを度々経験している。

施主と対峙し、その真の要求を見出そうとしている設計者・施工者へのヒアリング結果を深く分析することから、本所が取り組むべき研究・開発テーマを見出すことが可能であることが、本調査により明確となった。

表 1 専門家ヒアリング対象者一覧

氏名	所属・所在地	実施日(担当者)	備考
松井 郁夫、高田 正己	松井郁夫建築設計事務所・東京、BOZZ 建築工房・つくば	2001年10月4日(坊垣、福山、大久保、小俣、木内)	山林からの木材を活用した個人住宅設計、伝統的工法
山田 文夫	山田工務店・徳島	2001年10月18日(坊垣)	人や環境にやさしい住まいを提案
比嘉 武	T&T(株)・沖縄	2001年10月25日(大久保)	自然素材の木造住宅
鈴木 敏司	アトリエ アク・札幌	2001年12月5日(坊垣、小俣、木内)	公営住宅の設計 Hope 寒地研と共同作業
川村 武、川村 勇	(株)カワムラ・旭川	2001年12月6日(坊垣、小俣、木内)	北国の厳しい気候風土の中で快適な住まいづくりを探求
菊地 邦子、安田 正、田代 敦久	テリトプラン、クラフトサイエンス、田代計画設計工房・東京	2002年1月24日(福山、小俣)	家づくりの会
島崎 英雄	島崎工務店・富山県八尾	2002年1月24日(坊垣、河野)	伝統住宅継承、気骨な棟梁
小栗 康生	住工房・名古屋	2002年1月24日(坊垣、河野)	リフォーム
徳井 正樹、佐藤 文	徳井正樹建築研究室、K+S アーキテクツ・東京	2002年2月7日(河野、木内)	家づくりの会
藤原 昭夫、浦岡 健志	(株)結設計、浦岡健志設計室・東京	2002年2月14日(坊垣、大久保)	家づくりの会
磯田 節子	八代工業高専(もやいデザイン工房)・熊本	2002年2月21日(福山、大久保)	コーポラティブを实践している
高橋 寿美夫	日商ホーム・鹿児島	2002年2月22日(福山、大久保)	高遮音・高耐震・高断熱・高気密

2)に関しては、一般市民(18歳以上の日本在住者)を対象として懸賞論文「21世紀理想の住宅」を実施した。2001年10月に募集開始し、2002年1月11日の応募締め切りまでに191編の応募を得た。図1に全応募者の年齢構成および各年齢層における職業構成図を示す。

村上周三慶應義塾大学教授を委員長とする審査委員会の審議の結果、表2に示す受賞者を決定した。なお、受賞作品については全文を公表した。<sup>1), 2)</sup>

論文全体を通してみると、住宅を支える建築技術、住宅の生産システム、住宅に住まう人間関係とくに家族関係のあり方、環境と住宅のかかわり、住宅のおかれた社会システム等に関する現状の問題点を指摘し、こうあって欲しいとするアイデアを記述しているものが多数である。

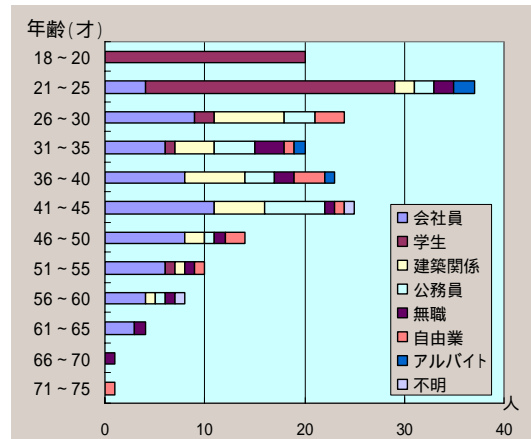


図 1 年齢別(職業別)構成

応募論文からキーワードを抽出・分析することにより、理想の住宅を実現するために必要な研究・開発テーマを導き出す第一ステップとするが可能であり、次年度以降の本所の研究・開発テーマ設定に役立つ貴重な資料を得ることができた。

表 2 「21世紀理想の住宅」論文入賞者一覧

	氏名	論文題目	所属
<b>最優秀賞</b>			
国土交通大臣賞	福井克也	電子雑誌「あこがれナビ」で選んだオートマチック大工の家	キーイングホーム株式会社
住宅生産団体連合会会長賞	稲吉しお里	身近な他人に開くドアを	主婦
建築研究所理事長賞	平木敬太郎	チープ化が生んだ変幻自在の住処	書体デザイナー
<b>優秀賞</b>			
	米澤昭	理想の我が家の建築記	財団法人日本住宅・木材技術センター
	深川敦司	浮遊する家	株式会社ランド環境プランニング
	稲井信輝	住文化のソフィスティケーション	大成建設株式会社
	寺田佳弘	「Supporting+Interesting!」住宅への誘い	株式会社日本システム設計

[参考文献]

- 1) <http://www.kenken.go.jp/japanese/news/21house/top.htm>
- 2) 懸賞論文「21世紀理想の住宅」について、建築技術、第627号、pp. 255-258、2002年4月